

「欧州の将来に関する コンベンション」の概要 (EU)

ブリュッセル・センター

2001年12月にラーケンで開催されたEU首脳会議で「欧州の将来に関する諮問会議（コンベンション）」を設置することが決まった。EUの制度改革に向けた次回の政府間会議（IGC）を準備する目的で、幅広い層の参加を得た協議機関として設立された。コンベンションは2002年2月28日に正式に発足し、一年後に改革案をEU首脳会議に提出することを任務とする。以下では、コンベンションの設置の背景と目的、構成、運営・日程、進展状況について報告する。

1. コンベンション設置の背景と目的

EUの拡大が予定される中で、EUの制度改革は今や不可欠となっている。EUはこれまで機構改革を経て、現状に適合する努力をしてきた。しかし、組織機構や制度が複雑化する一方、加盟国政府の合議制による意思決定という基本的なメカニズムは温存され、これがEUとしての意思決定を妨げる要因となっていることが指摘されてきた。中・東欧の新規加盟国を迎え、加盟国総数が30カ国程度にまで増えた後にも、従来の機構・制度で対応すれば、EUの政治的な求心力は維持できなくなるのは明らかであり、EUの将来像を見据えた上で、踏み込んだ機構・制度改革を行うことの必要性が認識された。

改革の試みがこれまでなされなかったわけではない。EUはIGCを開催し、拡大EUの見

通しを踏まえた機構・制度改革の準備を進めた。その総仕上げとなったフランスのニースで開催されたEU首脳会議（2000年末）では、各国間の利害が最後まで調整されず、従来の機構・制度の小幅な改正を盛り込んだ「ニース条約」を策定するのみに留まり、抜本的な改革は事実上失敗した。この反省に立ち、より幅広い見地から、改革案を準備する協議機関を設置し、準備作業を委ねる方針が浮上、2001年12月のラーケン首脳会議で設置が正式に決まった。

コンベンションは、EUの基本条約改正の準備のために設置された。各国の利害がぶつかりあいやすいIGCという形を避け、コンベンションは大所高所に立った開かれた協議を展開する。ただし、コンベンションがまとめた最終文書を叩き台として、最終的な決断を下すのはIGCであり、コンベンションが十分

に説得力のある改革案をまとめられるかどうか、改革の行方を左右する重要なポイントになる。

コンベンションは、欧州市民のEUへの期待がどこにあるのかを見極め、EUと加盟国間の権限の分担を提案する。また、EUの各機構間の権限の配分を検討し、対EU域外関係の一貫性と効率性を確保するための方法を提案する。また、EUに民主的な正統性を付与するための方法についても検討する。

2. コンベンションの構成

欧州理事会はコンベンション設置を決めた時点で、議長にフランスのパレリー・ジスカールデスタン元大統領を任命した。同時に、副議長として、イタリアのジュリアノ・アマート元首相、ならびにベルギーのジャンリュック・デハーネ元首相の2人を任命した。親欧州派で知られる有力政治家の顔ぶれが揃った。

コンベンションは総会、幹部会、ならびに事務局により構成される。

(1) 総会

総会は、議長と2人の副議長に加えて、以下の合計105人の委員により構成される。

- ・EU加盟各国の政府代表者、合計15人（各国につき1人）
- ・EUへの加盟が予定される13カ国の政府代表者、合計13人（各国につき1人）
- ・EU加盟各国の議会の代表者、合計30人（各国につき2人）
- ・EUへの加盟が予定される13カ国の議会の代表者、合計26人（各国につき2人）
- ・欧州議会の代表者16人
- ・欧州委員会の代表者2人

上記の105人に加えて、以下の代表にはオブザーバーとしての参加が認められる。

- ・EUの経済社会評議会（3人）、地域評議会（6人）、労使代表者（3人）、欧州オンブ

ズマン（1人）

欧州司法裁判所と会計検査院の各長官には、コンベンション幹部会からの要求に応じて、総会で見解を述べる事が認められる。

(2) 幹部会

幹部会は、総会を構成する委員の一部により構成される。議長、副議長2人、欧州議会の代表者のうち2人、欧州委員会の代表者2人、各国議会の代表者から2人、スペイン、デンマーク、ギリシャの3カ国の政府代表者、合計12人により構成される。スペイン、デンマーク、ギリシャは、コンベンションの活動が展開される2002年上半期から2003年上半期までに交代でEU議長国を務める3カ国である。このほか、加盟が予定される諸国の議会の代表者の中からアロイス・ペテルレ氏（スロベニア元外相）が、オブザーバーとして幹部会に参加する。

幹部会の構成は以下の通り。

議長：パレリー・ジスカール・デスタン（仏）

副議長：ジュリアノ・アマート（伊）

副議長：ジャンリュック・デハーネ（ベルギー）

EU議長国政府代表者：

アナ・パラシオ（スペイン）

ヘニク・クリストファーセン（デンマーク）

ゲオルギオス・カティフォリス（ギリシャ）

加盟国議会代表者：

ジョン・ブルトン（アイルランド）

ジゼラ・スチュアート（英）

欧州議会代表者：

クラウス・ヘンシュ（独）

イニゴ・メンデス・デ・フィーゴ（スペイン）

欧州委員会代表者：

ミシェル・バルニエ（欧州委員会委

員地域政策担当、仏)
アントニオ・ビトリーノ(欧州委員会委員司法・内務問題担当、ポルトガル)

オブザーバー:

アロイス・ペテルレ(スロベニア)

(3) 事務局

常設の事務局が設置され、事務局長には英国人のジョン・カー氏が就任した。

3. コンベンションの運営・日程

コンベンションの総会は月1回以上開催される。幹部会は月2回開催され、総会の議事進行の準備や具体的な提案の策定に当たる。

総会は開かれた意見交換・聴聞の場となり、委員以外にも各界の代表者に随時参加を求め、意見の聴取を行う。

幹部会は、技術的な問題などについて、必要に応じて欧州委員会の部局や専門家などに諮問を行うと共に、適宜作業部会を設置することができる。

コンベンションの議長は、欧州理事会の機会に、協議の進展状況を口頭で報告すると共に、各国首脳の見解を聴取する。

コンベンションは最終文書を2003年上半期中に提出する。最終文書は、いくつかの選択

肢を併記する内容とすることができるが、その場合には各選択肢を誰が支持したのかを明記する。コンセンサスが成立した場合には、一つの改正案のみを提示することもできる。

最終文書は加盟各国レベルで議論された結果と合わせて、IGCにおける議論の出発点として用いられる。最終的な決定はIGCで下される。

4. コンベンションの進展状況

ジスカール・デスタン議長はコンベンション発足時に、作業を3段階に分けて推進する方針を提案した。第一段階は「意見聴取」に当てられ、2002年夏まで続けられる。この段階では、幅広い層からの意見が聴取される。6月21～22日に開催されたセビリヤEU首脳会議で、ジスカール・デスタン議長は、コンベンションの進捗状況について順調に作業が進んでいる旨各国首脳に報告した。同会議で欧州理事会はコンベンションによるアプローチを全面的に支援するとコメントした。第二段階の「検討段階」は9月から始まる。意見聴取の結果を踏まえて、具体的な改革案の策定に向けた協議を開始する。第三段階は2003年春期の「文書作成段階」で、同年上半期末前に最終文書が策定され、EU首脳会議に提出される。